

2

問題

次の日本語を英訳せよ。

(50 点)

- (1) 私は、隠し事をするくらいなら別れた方がましだと思っているので、たとえ彼が聞きたがらなくても何でも話してしまう。(15 点)
- (2) タバコを吸う人のすべてがガンになるわけではないが、タバコを吸う量が多ければ多いほどガンにかかる可能性は増大する。ヘビースモーカーがガンになる可能性は、タバコを吸わない人の約 2 倍であると言う人もいる。(35 点)

解答

- (1) I think that we might as well split up with each other as have secrets between us, so I even tell him the things that he doesn't want to hear.
- (2) Not every smoker gets cancer, but the more a person smokes the greater the possibility of his or her getting cancer becomes. Some people say that the possibility of getting cancer for a heavy smoker is about twice as great as (the possibility of getting cancer) for a non-smoker.

別解

- (1) I would rather break up with him than keep something secret from him, so I tell him anything even if he doesn't want to listen to.
- (2) Not everyone who smokes will suffer from cancer. However, the more you smoke, the more likely you are to get cancer. Some people say the risk of cancer for a heavy smoker is some twice greater than (the risk of cancer) for a non-smoker.

解説

- (1) **might as well A as B の A と B は動詞の原形**

■組み立てのポイント

- 「B するくらいなら A した方がましだ」は同等比較を用いた **might as well A as B** (B するくらいなら A する方がよい) の構文を使う。あるいは「B するよりもむしろ A したい」と読み換えて **would rather A than B** (B するよりもむしろ A したい) の形にすることもできる。比較の熟語表現を使う際にも、**同じものを比較する**ことを念頭に置いて組み立てる。ここでは might as well A as B, would rather A than B のどちらの形も A と B には動詞の原形がくる。

なお、might as well A as B で as B の部分が省略されると「(どちらかというと) A した方がよい」という控えめな提案のニュアンスにもなる。

Ex. I think we *might as well* pack up and go home.

(私たちは荷物をまとめて引き上げた方がよいと思う。)(OALD)

- 「たとえ…でも」「譲歩」を表す副詞節 even if …; even though …; even when … で表す。または、日本語を「彼が聞きたくないことまで話ささえる」と考えて、関係詞節を使って even tell him the things that he doesn't want to listen to [hear] のようにも表せる。

■語句・表現

- 「隠し事をする」keep O secret from ~ (O を～に内緒にする) を使うことができる。これは

keep O C (O を C の状態にしておく) の構文で、C に形容詞の secret がきている形である。日本文では「～に」に当たる表現はないが、ここでは「誰に」隠し事をするのかを明確に表現した方がよい。したがって、「私」が主語なら from him (彼に), 「私たち (2 人)」を主語とするなら from each other (お互いに) と補う必要がある。「事」は「何か」と考えて something を用いる。または、「私たち」を主語にして「(私たちの間で) いくつかの秘密を持つ」と考えて、we have secrets (between us) とすることもできる。

- 「(～と) 別れる」は、会話でよく使われるのが break up (with ～) であるが、よりくだけた表現で split up (with ～) という言い方もある。

Ex. She said, "We have no choice but to *split up*."

(「私たち、別れるしかないわね。」と彼女は言った。)

他に part (from ～) という表現もあるが、こちらは硬い言い方。なお、2 人を夫婦と考えるなら、「(～と) 離婚する」として、get a divorce (from ～); get divorced などの表現も使える。

- 「聞きたがらない」does not want to listen to [hear] ～ (～を聞きたくない) の形を使えばよい。
- 「何でも」anything; everything

(2) The 比較級 S' + V', the 比較級 S + V.

■組み立てのポイント

- 比較の文では「比較の対象」に注意する必要がある。日本語ではこの部分があいまいな場合が多いので、英語では**比較の対象をそろえ、言葉を補って書かなければならない**。また、比較の文は語順も間違えやすいので注意すること。
- 第 1 文は日本文通りに、前半と後半を but でつなぐ構成でもよいし、それぞれを独立した文として、後ろの文を However などでも始めてもよい。
- 第 1 文前半は「部分否定」となることに注意。後半は **The 比較級 S' + V', the 比較級 S + V.** の形で表すことができる。「タバコを吸う量が多ければ多いほど」は「人がタバコを多く吸えば吸うほど」と読み換える。「ガンにかかる可能性は増大する」はそのまま「ガンにかかる可能性」を主語として「増加する」を動詞とする形の他に、「人」を主語として「ガンにかかりやすい」を述部として表してもよい。
- 第 2 文では倍数表現 (**X times as ～ as …** や **X times + 比較級 + than …**) を使うことになるが、同じものを比較することに留意する。ここでは、比較の対象の基本形は「ヘビースモーカーがガンになる可能性」と「タバコを吸わない人がガンになる可能性」であることを確認しよう。

■語句・表現

- 「タバコを吸う人のすべてが…するわけではない」「部分否定」となるので、主語を 'not + every + 名詞の単数形 [all + 名詞の複数形]' の形にして、Not every smoker; Not all smokers; Not everyone who smokes など文を始める。
- 「ガンにかかる」get [suffer from] cancer とする。「～ (= 病気) にかかる」を表すには get ～を使う。e.g. get a cold (風邪をひく)
- 「タバコを吸う量が多ければ多いほど」「量」などをそのまま英訳しようとすると難しく、文も複雑になる。「人がタバコを多く吸えば吸うほど」と捉えて、the more a person smokes [you smoke] とするのがわかりやすく簡潔。

○「ガンにかかる可能性は増大する」

方法 1 : 「ガンにかかる可能性」を主語にする → 「ガンにかかる可能性」は the possibility of getting cancer. 「可能性」は「危険性」と考えて the risk としてもよい。また「タバコを吸う量が多ければ…」の部分の主語に合わせて his or her possibility, your possibility のように所有格を付けてもよい。述部の「増大する」は increase または become [be] great と表すことができる。

方法 2 : 「人」を主語にする → be likely [liable] to … (…しがちである) を使って, the more likely [liable] he or she is to get cancer などの表し方もできる。likely と liable を使う場合, the more likely [liable] のかたまりで前に出すことに注意する。

○「ヘビースモーカーがガンになる可能性」「ガンになる可能性」については前述の通り。「ヘビースモーカーが」は前置詞 for (～にとっての) を用いて for a heavy smoker [heavy smokers] と句で表す。

○「タバコを吸わない人」それ自体は non-smoker(s) でよいのだが、前述のようにここは「タバコを吸わない人がガンにかかる可能性」と考えるべき。したがって, the possibility of getting cancer for a non-smoker となるが、重複する the possibility of getting cancer は省略する方が自然である。for a non-smoker だけを残しても, the possibility of getting cancer for a heavy smoker と the possibility of getting cancer for a non-smoker の比較であることはわかるからである。

○「約 2 倍」「約 2 倍大きい」ということなので, great を用いて about twice as great as [greater than] (for a non-smoker) とする。

○「…と言う人もいる」some people say that …